

# 槐

かい

岡井省二創刊

令和3年3月号

令和三年三月一日発行 第三十一巻第 号  
平成二年九月十八日第三種郵便物認可

通巻第 五七号 (毎月一回) 日発行



# 鏡餅

高橋将夫

初夢や塗り替へられてゆく記憶  
やり場なき思ひを捨てる大枯野  
人には愛鬼には情けお元日  
風神と兎の切手初便り

初鶏の一声胎児目を覚ます

雨の日も日は昇るなり仏の座

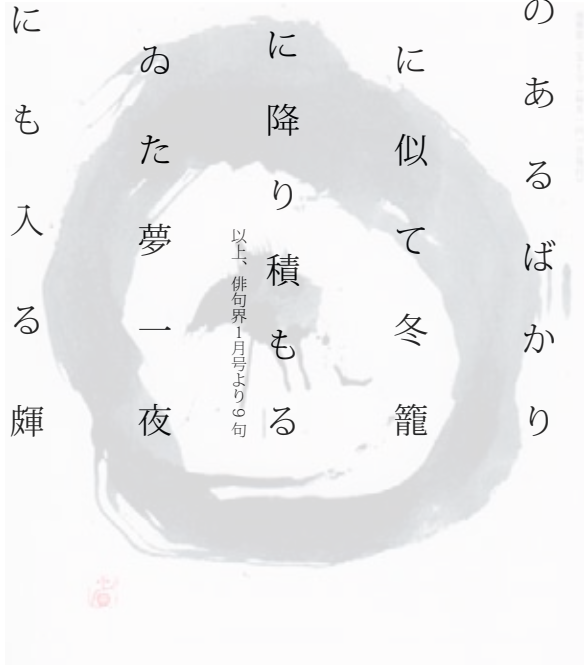
寒雷の後沈黙のあるばかり

水底の静けさに似て冬籠

新雪が禍根の上に降り積もる

天狼の輝いてみた夢一夜

信頼や鏡餅にも入る輝



以上、俳句界1月号より6句

# 死後の世界

柳川 晉

内典も外典も死語を牛蒡注連  
神農のてのひら柔し若菜狩  
指南車に載せぽつぺんの向く方へ  
本当に亀は交尾の絶頂とに鳴く  
さるぼぼはアマビエの鼻祖種痘跡  
絶滅の獺をそに代はりて魚祭る  
踏青やゲバルト・ローザのパンタロン  
ピラミッドになると言はれて蛇籠編む  
彷徨へる和蘭陀人のコレラ船  
竹婦人は純国産の二萬円

## 特別作品

虫干をせねばおまへは死語となる  
夜学生死語の世界にある格差  
豺<sup>やまいぬ</sup>は獣を祭り国会へ  
資本論の論旨雀は蛤に  
神の旅不要不急と咎められ  
影踏みや子供は誰もサイコパス  
香港へ向けて打つなり亥の子石  
押しくら饅頭連邦議会まで歩け  
竈猫花咲爺は嫌ひなり  
掛乞や死語は勘定に入れぬ

# 槐集

高橋将夫選

鴛鴦や愛で包みし砂糖菓子

大阪 平野多聞

とんぼうに天敵のある平和かな

一葉落つ心変はりの色見せて

紅葉山笑ひころげて化粧落つ

ストレスは縦に積むべし宝船

億年の物語秘め月煌々

藤田美耶子

三密をさけて心に隙間風

裸木の雑念もなく澄みゆけり

自粛の日々やつとはじけし鳳仙花

日の温み命の温み落葉踏む

倭の国の心の風景紅葉づりて

枚方 高野 昌代

半眼の仏像に一条冬西日

榎植の実葉守の神に祓はれて

降る霜の嫁入り娘のべールとす

去ぬ干支の逃げ足速き嫁が君

寄り添ふも個を貫くも冬の鳥

息白し顔が美人と言つてをり

湯ざめしても見ドラマの最終回

闇汁の中に渦巻く人の闇

冬銀河生は偶然死は必然

止めどなく笑ふ子十五花ひらぎ

闇汁や箸にかからぬ物の在る

弱気の虫ヒョイとつまんで猪の鍋

手袋の小指の先の余りかな

風花や思ひの文の散り散りに

齢にも華やぎのあり桜炭

寒林の光満つるや胸の窓

悔なしと思ふ哀楽実万両

言葉なき人との聖夜星ならす

歩みきし道の彩どり冬堇

守口 三木 亨

竹原 久保 夢女

枚方 阪倉 孝子